

来週の「売り物記事」はこれ



2017年4月7日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

旧東ドイツ・秘密警察「シュタージ」の爪痕（後編）

9日（日）



ドイツ統一に伴い、東ドイツの恐怖政治を支えていた秘密警察「シュタージ」も解体されました。残されたのは総延長 111 キロ超に及ぶ膨大な秘密文書。一般市民に開示されることになりましたが、その内容は新たな悲劇や分断をもたらします。政治と無縁だったはずの夫がシュタージのスパイだったことを妻子が知り、家庭崩壊に追い込まれるケースも生まれました。その一方で、シュタージが支えた独裁政党「ドイツ社会主義統一党」は、統一後もいくつかの再編をへて生き残ります。旧東ドイツがもたらした苦しみを今も抱えつつ生きている人々の姿を描きます。2012年4月1日朝刊からスタートした「ストーリー」はこの作品で 250 回目の掲載になります。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

「なぜ罰則ない？」の疑問から運動へ

「放射能汚染防止法」をつくろう

夕刊特集ワイド 10日（月）



放射性物質を飛散させたら、罰則を科す。そんな法律をつくろうという運動が広がっています。「放射能汚染防止法」です。東京電力福島第1原発事故で、あれほど大きな被害を出したというのに、どうして罰せられる人がいないのか……。そんな問いかけからスタートした動きです。「放射性物質による汚染を公害と認め、他の公害と同じように責任を問われるべきだ」。国が原発再稼働を進める中、関係者の訴えが重く響きます。

陸上男子100メートル「9秒台」なるか

スポーツ面 11日（火）から全3回

陸上競技のシーズンが4月から本格化します。今季最大の注目は日本男子短距離界の悲願「100メートル9秒台突入」が実現するか。昨年のリオデジャネイロ五輪男子400メートルリレー銀メダルのメンバーだったケンブリッジ飛鳥（ナイキ）、桐生祥秀（東洋大）、山県亮太（セイコーホールディングス）の3選手に期待がかかります。関係者が「いつ、どこで、誰が出すか、というところまで来た」と話す9秒台達成に向け、3選手の現状と展望を探ります。



強すぎる？柔軟剤の香り

くらしナビA面 12日（水）



香りの強い外国製品が出回り始めたこともあり、洗濯で使う柔軟剤のにおいが苦手という訴えが増えています。家族間やご近所トラブルにもつながっています。メーカー各社は周囲への配慮を求めています。個人差があるうえ、健康不安を訴える人も。「香害」という言葉も出ているそうです。どうして、柔軟剤に香りが必要なのでしょう。

ぷらすアルファ 旅行会社が破綻したら くらしナビA面 13日(木)

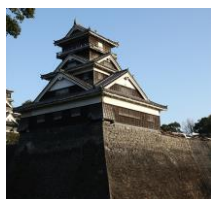
格安旅行会社であるみくらぶが3月に経営破綻し、海外旅行中にホテル代を追加請求されたり、費用を払い込んだのに旅行に行けないなど多くの利用者が被害を被りました。安く手軽に海外旅行を楽しみたいのは人情ですが、どのような危険があるのか、もし、トラブルが起きた場合は対策をどのようにすればよいのか、取材しました。



熊本地震から1年

被災地の現状と積み残された課題

オピニオン面 [論点] 14日(金)



多数の死傷者、避難者を出した熊本地震の発生から14日で1年を迎えます。被災地では復興への取り組みが進みますが、依然、4万人を超える被災者が仮設住宅などで不自由な暮らしを送っています。熊本県の蒲島郁夫知事と、復興方針を話し合う有識者会議の座長を務めた五百旗頭真・熊本県立大学理事長に被災地の現状と将来への課題を聞きました。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

熊本地震から1年 懸念される大地震

8日(土)

大きな被害が出た熊本地震から1年。震度7の揺れが2度も起きて注目されたが、その後も周辺では体に感じない小さなものも含めて地震が多発している。活断層が多く、その構造が複雑な地域であることが理由とみられる。1年前から本格的に活動していない活断層も残っており、今後それらで次の大地震が起きるのではないかと懸念する専門家もいる。

